芝久保小学校　研究だより

NO.４

令和３年１月１８日
西東京市立芝久保小学校
校 長　渡邊　俊一

道徳授業地区公開講座の報告　今年度の振り返り

先日、１３日（水）に道徳授業地区公開講座を行いました。５時間目には、全学級で道徳の授業実践を行いました。また、６時間目には、５年生６年生が、国立ハンセン病資料館の平沢保治さんの講演の映像を通して、人権、公正、公平な社会とは何か考えました。本日は、各学級の授業の様子、今年度の研究の成果と課題についてご報告いたします。

全学級での道徳授業の様子

１年生

２年生

３年生

４年生

５年生

６年生

今年度の研究の成果と課題

成果

〇多様な指導法の工夫
　それぞれの授業において、道徳的価値とねらい、教材の特性、児童の実態を踏まえて指導法を工夫することができた。
　例）・板書で対比構造を作ったり、人物相関図を明らかにしたりする。
　　⇒教材の大まかな内容を児童が把握しやすい環境を作れた。（授業の土台づくり）
　　・児童の考えの分類と価値付けを児童が主体となって行う。
　　⇒自分の考えと友達の考えの違いやそれぞれの良さを実感する機会が作れた。
　　（多面的、多角的な見方）
　　・場面設定と演者の役割を明確にした上で役割演技を行う。
　　⇒児童が登場人物の気持ちを実感し、自己の行為や考え方を再認識することができた。
　　（相手の立場に立って行動する）

〇児童の様々な学習状況の評価の工夫
　発言、発表場面はもちろん、児童の細かな様子を適切に把握できるように評価方法を工夫することができた。
　例）・事前にどのような学習状況が生まれるか想定した上で座席表を活用する。
　　⇒観点がはっきりしていたため、より適切に早く児童の様子を把握することができた。
　　・ティームティーチングによる複数人体制の指導を行う。
　　⇒個別の声掛けにより、児童の思考がより深まったり、その様子を把握したりすることができた。
　　・ネームプレートを活用し、児童の考えや立場を明確にする。
　　⇒指導はもちろん、だれのどのような考えか板書に残っているため、適切に評価もすることができた。

課題

〇中・長期的な期間で継続的に評価をしていく。
　・１回の授業で、すべての児童の学習状況を把握しきることは難しい。だからこそ、長い期間で継続して評価し続け、個人内評価をしていくことが、今後も大切である。

〇指導と評価の一体化を意識し、授業改善を繰り返していく。
　・今年度の研究では、児童の学習状況を想定した上で指導法や評価法を検討していった。今後も、日々の授業の中で児童の学びの姿を考え、想定する学習状況が見られた場合は、今後の実践のノウハウにしていき、想定する学習状況が見られなかった場合は、原因を考え、授業改善を図っていくことが必要である。